

海外安全対策情報（2024年11月～2025年1月）

1 社会・治安情勢（コントロールリスクス社提供ほか当館調べ）

（1）テロ情勢

ア 傾向

2021年以降、パキスタンにおいて発生した中国権益に対するテロ攻撃は14件発生しており、中国人20名が死亡、34名が負傷したことが明らかになった（国家テロ対策庁：National Counter Terrorism Authority 報告）。

14件の発生場所内訳は、シンド州8件、バロチスタン州4件、KP州2件であった。

中国人に限定した被害報告を行うことは異例であるほか「中国・パキスタン経済回廊（CPEC）事業に対する直接的な攻撃はない」とする説明があり、中国政府の圧力にパキスタン政府が苦慮している様子が窺え、今後、中国関連プロジェクトに対して治安リソースが割かれる可能性は否定できない。

また、中国人のみならず外国人もその標的として除外されていないことに留意する必要がある。

2024年のテロ情勢として、パキスタン平和研究所報告によれば、年間521件のテロ事件が発生しており、これはテロの脅威が高かった2014年・2015年前後の数字に近く、9年ぶりの高い数値となった。

テロ攻撃は、KP州（全体の56.6%）やバロチスタン州（全体の32.8%）に集中しているが、バロチスタン州のテロ事件発生数は、2023年比119%増であり、同州の脅威度が増していることを示している。

イ 主なテロ事件等

- ・ 11月16日 バロチスタン州カラート

軍事キャンプが襲撃され、数時間に及ぶ交戦により、少なくとも兵士7名とバロチスタン解放軍（BLA）6名が死亡した。

- ・ 11月17日 シンド州カラチ・カールサーズ

ニュースチャンネルの記者が武装集団から銃撃を受けた。

- ・ 11月23日 バロチスタン州マストゥング

BLAによる攻撃の脅威が高まったとして、警察官各自に対し、執務外においても武装を解除しないよう通知が発出された。

- ・ 11月25日 バロチスタン州カラート

BLAが設置した即席爆発装置（IED）により兵士10名が死亡、6名が負傷した。「パキスタン占領軍がバロチスタンから撤退するまで、同軍に対する作戦を継続する決意を再確認する」旨声明が発出された。

- ・ 12月6日 バロチスタン州ドゥッキ

BLAが陸軍基地に対してロケット弾等による攻撃を実施し、兵士4名が死亡した。

- ・ 12月9日 バロチスタン州キラ・アブドゥラー
市民病院の庭で爆発が発生し、2名が死亡した。
- ・ 12月20日 バロチスタン州カーラーン
バローチ解放戦線（BLF）が軍の車列を襲撃し、兵士9名が死亡した。
- ・ 12月23日 バロチスタン州アワーラン
IEDにより、CPECのM8道路プロジェクトに従事していた建設車両が破壊された。
- ・ 12月25日 バロチスタン州ケチ
IEDにより、国境警備隊員2名が死亡した。
攻撃は、カタール王族の一団が狩りのため同地を訪れており、一団が帰宅する車列を狙ったものとみられている。
12月22日には、BLFがカタールとオマーンからの訪問者に対し「同地域での狩猟の禁止」を警告していた。
- ・ 12月30日 バロチスタン州アワーラン
BLFが軍の車列を襲撃し、兵士5名が死亡した。
- ・ 1月8日 バロチスタン州クズダール
同地域の小規模な街がBLAによって一時占拠された。

（2）一般犯罪等情勢

ア 傾向

年末年始前後に、強盗に抵抗した被害者が銃撃され死亡する事案やATM利用後の強盗事件が発生している。

また、シンド州タッタを訪問していたポーランド国籍ほか1名の外国人が強盗団に襲われスマートフォンを強取されている。

その他、流れ弾による死亡事例も散見された。

年末には、カラチ市内シャラエファイサルを中心に各地で抗議デモ（※参照）が発生し、在留邦人の移動にも影響を及ぼした。

※11月下旬、KP州クラム部族郡パラチナールにおいて、シーア派部族とスンニ派部族の抗争により多くの死傷者が発生するとともに、パラチナールとペシャーワル間を結ぶ幹線道路が封鎖され、生活物資の供給がされなくなる事態が発生した。

イ 主な一般犯罪事件等

- ・ 11月17日 カラチ サルジャーニ地区
強盗犯が警察官に向けて発砲し、両者間で銃撃戦が発生した。
- ・ 11月24日 カラチ クリフトン地区
元警察官を含む強盗団が警察と遭遇し、銃撃戦の上射殺された。
強盗団はDHA地区でも犯罪を行っていた。
- ・ 11月25日 カラチ カーイダバード地区
商店に対する強盗事件が発生した。犯人は入店わずか5秒で店主を脅し550万ルピーが入ったバックを強取した。

- ・ 12月11日 シンド州

シンド州警察長官は「カッチャエリア（※スラム）において、ハニートラップによる身代金目的誘拐事件が発生している」と警告を発信した。

2 当面の警戒を要する主要行事

- ・ ラマダン（2月28日～3月31日。月の満ち欠けにより変化あり。）

3 邦人被害事案

邦人被害事案には接していない。

4 統計

※テロ件数は、在イスラマバード民間シンクタンク「パキスタン平和研究所」資料。

※一般犯罪統計は、C P L C（Citizens Police Liaison Committee）資料。

（1）カラチ市

ア テロ発生件数等

カラチ市におけるテロの脅威は依然として存在する。

2024年のカラチ市内テロ発生件数（1月から12月）は10件で、死者14名、負傷者26名であった（前年同期14件、死者16名、負傷者16名）。

昨年比でやや減となるも、4月の邦人被害のテロ事件及び10月のカラチ空港直近における自爆テロの発生は印象深く、警戒力を維持することが必要である。

標的は中国権益、治安機関、スンニ派宗教指導者、シーア派宗教指導者、政治家であり、B L A、T T P、ラシュカレ・ジャングヴィー（L e J）等が犯行声明を発出している。

2024年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
発生件数	2	2	0	1	2	0	2	0	0	1	0	0	10
死者数	2	2	0	3	1	0	2	0	0	4	0	0	14
負傷者数	4	0	0	2	1	0	3	0	0	16	0	0	26

イ 一般犯罪（街頭犯罪）発生件数等

2023 年と比較して、犯罪認知件数は減少しているが、多くの強盗事件が発生しており、市内移動間は注意を要する。

その他、使用人による犯罪も発生しており、新規雇用する際は、身元を明らかにし、警察への犯罪経歴照会を行うとともに、継続雇用している者についても、行動の変化などに注意を向ける必要がある。

2022 年から 2024 年の月別街頭犯罪発生件数は以下のとおり

2024年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
強盗(自動車)	17	33	22	19	19	24	19	23	31	28	24	24	283
窃盗(自動車)	163	138	141	143	145	135	164	150	159	165	151	148	1802
強盗(バイク)	863	916	968	612	711	564	610	656	621	674	516	493	8204
窃盗(バイク)	4454	4221	4546	3572	3103	2792	3076	3385	3361	3233	2950	3165	41858
強盗(携帯電話)	2305	1989	1808	1368	1420	1433	1490	1737	1651	1576	1436	1426	19639
誘拐(身代金目的)	4	0	1	1	3	0	3	3	2	2	0	1	20
恐喝	9	11	5	15	7	6	4	6	5	12	6	3	89
殺人	50	56	48	59	45	40	58	48	36	38	33	32	543
銀行強盗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2023年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
強盗(自動車)	13	15	14	18	18	34	12	48	15	25	26	26	264
窃盗(自動車)	214	163	174	143	147	159	146	183	192	182	163	180	2046
強盗(バイク)	420	326	527	465	628	604	569	790	730	817	694	729	7299
窃盗(バイク)	4223	4054	4530	4408	4580	4144	4343	4604	4669	4396	4030	4048	52029
強盗(携帯電話)	2379	2255	2577	2253	2472	2200	2092	2582	2464	2446	2272	2095	28087
誘拐(身代金目的)	1	0	0	1	0	2	2	2	1	3	2	3	17
恐喝	0	4	0	1	3	3	1	2	2	10	13	11	50
殺人	50	49	47	40	69	55	59	50	62	62	52	52	647
銀行強盗	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2

2022年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
強盗(自動車)	16	15	16	12	12	10	15	12	19	8	10	16	161
窃盗(自動車)	184	171	204	181	174	178	145	155	169	203	142	199	2105
強盗(バイク)	419	405	426	353	383	456	393	450	427	446	424	388	4970
窃盗(バイク)	3908	4081	4285	3952	4454	4197	3984	4869	4553	4659	4626	4333	51901
強盗(携帯電話)	2499	2199	2416	2118	2658	2600	2154	2677	2446	2260	2372	2162	28561
誘拐(身代金目的)	1	0	1	1	0	4	0	1	2	2	1	0	13
恐喝	1	1	0	0	1	0	0	1	1	3	4	0	12
殺人	44	34	43	46	65	44	52	44	56	57	54	54	593
銀行強盗	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2

(2) シンド州（カラチ市を除く）

シンド州のテロはカラチ市に集中している。

ただし、武装集団による犯罪行為（強盗、誘拐、殺人等）は散見されるため、州内移動には注意が必要である。

シンド州北部のインダス川北側域を中心に対ダコイト作戦が定期的に敢行されており、同地域への訪問は注意が必要である。

2024 年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
発生件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
負傷者数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

(3) バロチスタン州

2024 年のバロチスタン州でのテロ発生件数は 202 件で、死者 322 名、負傷者 534 名（前年同期 110 件、死者 222 名、負傷者 271 名）であった。

主な標的は、政治指導者であるが、非バローチ人（パンジャブ人等）の犠牲者も目立った。

BLA、BLF、BRAS 及び IS-K（ホラーサーン州）/ ISPP（パキスタン州）によるテロ攻撃が多くを占め、手榴弾やIEDによる攻撃、治安機関への襲撃が目立つが、2024 年 11 月には、クエッタ駅構内で多くの民間人を巻き込んだ自爆テロも発生した。

2024 年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
発生件数	17	48	7	8	13	6	11	28	17	9	19	19	202
死者数	45	42	19	18	16	4	6	57	19	30	55	11	322
負傷者数	41	83	20	11	37	14	19	84	46	24	130	25	534

5 在留邦人の安全に関わる対策等

(1) 最近の治安情勢を受けた注意点

- ・ 象徴的なターゲットへの攻撃への注意
中国権益や空港等ソフトターゲット、政府重要施設は十分な警戒を要する。
- ・ 中国権益以外への攻撃の可能性
中国権益に対する攻撃が目立つため、治安リソースがそちらに割かれる傾向にある。
- ・ ローンオフエンダー型テロ事件への懸念
BLAの発信力が強まれば、それだけ感化される者も増える。
- ・ 通信制限に対する備え

(2) テロ対策

- ・ 移動時は警護員を帯同させ、自宅においても警備員の配置を検討する。
- ・ 企業・個人等の情報や行事予定の共有は必要最低限にする。

- ・ 出退勤においては複数ルートを選定するとともに、出退勤時間を変えることが望ましい。
- ・ 治安当局からの要請のとおり、防弾車が準備できれば安全性は増す。
- ・ 治安情勢の変化に伴い、治安当局への応援要請も検討する。
- ・ テロの標的となっている場所（政府機関・軍・治安当局、宗教施設、中国関連施設、米国関連施設）への立ち寄りには努めて避け、集会・抗議活動等には近づかない。

（３）銃器使用による強盗（ガンポイント）対策

- ・ 警護員を帯同させる。
- ・ 銀行・両替商の利用者が標的とされやすいため、現地職員に業務を委託するなど被害に遭わない工夫をする。
- ・ 犯人はバイクや徒歩で近づいてくるほか、標的選定のために見回るケースもあることから、同じ場所に長時間滞在することを避ける。
- ・ 渋滞を避ける。

（４）デモ・抗議集会に関する情報収集

- ・ 渋滞に巻き込まれ強盗等の被害遭遇を避けるため、ドライバー等を活用し、情報収集を行う。
- ・ 群衆は些細なことで暴徒化する可能性があるほか、当該デモ等が犯罪組織やテロ組織の攻撃対象になる可能性もあるため、決して近づかない。

（５）安全に対する自己点検

- ・ 常に安全に対する問題意識を持ち、疑問点を確認する。
- ・ 安全対策に正解はなく、治安情勢に沿った対策を講じる。
- ・ 安全対策について、当館警備班に相談する。

（６）平時の留意事項

- ・ 緊急時の連絡体制・優先事項等を整備する。

※ 早期に必要な情報

- ・ いつ、どこで、誰が、どのような事件に見舞われているか。
- ・ （特に日本人の）安否・負傷の程度、現在も危険に晒されているのか
- ・ 現地職員が近くにいるのかいないのか
- ・ 治安当局等関係部署への連絡手段の有無
- ・ 事前の不審動向の有無
- ・ 近隣の治安機関（レンジャー・ＦＣ・警察）を把握しておく。

（了）